

岡崎むかし館

と そ き 屠 蘇 器



岡崎むかし館蔵



合成樹脂製/岡崎むかし館蔵

日常的な生活のことを「ケ」というのに対して、晴れ着、晴れ舞台という言葉があるように、行事や祭礼など特別な場面を「ハレ」といいます。くらしの道具には、日常的によく使われる道具と、特定の行事の時にだけ使われる道具(=「ハレの道具」)があります。「ハレの道具」は特別なものなので、どこの家でも大切に保管されていることが多いのですが、近年では、各家庭で行われる年中行事も様変わりをし、しまい込まれているハレの道具も多くあります。

そこで今回は、屠蘇器を取り上げます。むかしから元旦^{がんだん}の朝に家族みんなで新年を祝い、屠蘇酒を飲む風習があります。屠蘇とは「鬼気を祓^{はら}い(屠)、人魂^{ひとたま}を蘇^{よみがえ}らせる」意味があり、新しい年の初めにあたり、1年の健康を願うために飲む薬酒を指します。かつては、数種類^{しょうやく}の生薬を各家庭で調合したそうですが、現在では「屠蘇散」として薬局などで入手できます。これを一晩、清酒やみりに漬け込み、家族の若い人から順に飲みます。屠蘇器はこの正月行事に使われるハレの道具で、屠蘇酒を入れる銚子^{ちょうし}と三つ重ねの盃^{さかすき}、その盃を置く盃台^{はいだい}をセットにしたものです。

ハレの道具は行事や催事と密接に関わります。ぜひ皆さんの家にしまい込まれているハレの道具について調べてみてください。どのような道具が、どんな時に使われていたのかを知ることで、行事に対する認識が高まるとともに、行事に込められた先人の思いや願いにふれる機会となると思います。